

安全保障と米軍基地(II)

(1)侵略、テロ攻撃対応

最近の米国の発表によれば、原子力発電所へのテロ攻撃を阻止することの重要性を唱え、その対応が重要な軍事戦略の一つとして、色々なシュミレーションによる軍事戦略が作られたと思います。

日本の安全保障を考えると、他国が核兵器を保有しているか否かではなく、ミサイルの照準が原子力発電所であるとすれば、通常ミサイル、或いは、他国空軍爆撃により、核ミサイルに匹敵する被害を想定しなくてはなりません。

日本は防衛を第一軍事戦略として、そのような攻撃に対して対応できる軍事戦略が重要です。

原子力発電所の周辺の自衛隊基地に米国と連動した迎撃ミサイルを配備、或いは米軍との共同基地とすることにより、その被害は最低限にすることが可能と考えます。迎撃ミサイルの射程は短距離としての的中率を上げることが重要であり、この場合であれば防衛の範囲であると考えます。

(2)沖縄基地の米軍滑走路の演習

沖縄県民の負担を最小限にする必要性から考えると、拡張ではなく縮小による効率性の追求と考えます。基地の滑走路は海上拡張計画より、陸地の滑走路の配置変更により、平時の通常演習のときの効果的な離着陸マニュアルを作れば、騒音と危険度を激減できると考えます。

つまり、離陸は海岸方向への一方向のみとし、着陸は海岸からの侵入に限定すれば、滑走路以外の陸地での低空飛行を無くすることが可能です。つまり、「陸地方向への離陸」と「陸地方向からの着陸」を無くします。ただし、緊急発進は除外します。ただ、緊急発進の時間的ロスを考え、例えば2本の滑走路の1本は東方向への発進とし、他の1本は西方向への発進とすることも、海岸沿いの地形や山岳地形により可能と考えます。

逆に、山岳地帯を基準に考えれば、離陸は民家のない山岳地方向のみとし、着陸は山岳地方向より限定しても同様の効果があります。

もちろん、県外移設案も選択肢として考えられると思いますが、移設による戦略上とか時間的ロスが生じるとすれば、大型空母の配備とか、迎撃戦闘機の精度の向上、又は迎撃ミサイルの精度を上げる等、つまり米軍の軍事シュミレーションと軍事面での技術革新により達成可能と考えます。

つまり、仮想戦闘地域までの距離が遠くなるとすれば、レーダー機能を2倍とし、現戦闘機の音速の1.5倍で飛行可能な戦闘機を配備するとか米軍の軍事面での技術革新、及び迎撃ミサイル追加配備、大陸間弾道ミサイルを配備するとか、核ミサイル発射可能な原子力潜水艦の領海外配備により、優勢になることはあっても、劣勢にはならないと思いま

す。

滑走路の配置と、このような離着陸システムにより、騒音被害を最低限とする配置図案を作成しましたので、以下に添付しました。

軍事と安全保障が重要なことは言うまでもありませんが、人類の将来と存続に関わる環境保全も、安全保障に匹敵する重要課題です。

離着陸－滑走路配置図(案)

